

後に又經を説べき由を云はざる也。唯法華經計こそ最後の極説なるが故に、已今當の中に此經獨り勝れたりと説れて候へ。されば釋には、唯至法華説前教意顯今教意と申て、法華經にて如來の本意も、教化の儀式も定りたりと見えたり。依之、天台は如來成道四十餘年未顯眞實法華始顯眞實と云へり。此文の心は、如來世に出させ給て四十餘年が間は眞實の法をば顯はさず。法華經に始て佛になる實の道を顯し給へりと釋し給へり。問云、已今當の中に法華經勝れたりと云事はさも候べし。但し有人師の云、四十餘年未顯眞實と云は法華經にて佛になる聲聞の爲也。爾前の得益の菩薩の爲には未顯眞實と云べからずと云義をばいかか心得候べきや。答云、法華經は二乗の爲也、菩薩の爲にあらず。されば未顯眞實と云事二乗に限るべしと云は徳一大師の義歟。此は法相宗の人也。此事を傳教大師破し給に、現在麤食者偽章數卷作謗法誘人何不墮地獄と破し給ひしかば、徳一大師其語に責られて舌八にさけてうせ給き。未顯眞實者二乗の爲也と云はば、最も理を得たり。其故は如來布教之元旨は元より二乗の爲也。一代の化儀、三周の善巧、併ら二乗を正意とし給へり。されば華嚴經には地獄の衆生は佛になるとも、二乗は佛になるべからずと嫌ひ、方等に

①釋には＝釋之②〔と申て法華經にて〕一③成道＝出世④〔法華始顯眞實〕一⑤云へり＝釋給へり⑥〔實の〕一⑦〔と釋し給へり〕一⑧〔師〕一⑨爲十(未顯眞實可云)⑩〔爾前の得益の〕一⑪〔されば〕一⑫〔二乗...云は〕10字一⑬〔此は...人也〕8字一⑭〔破し給に〕一⑮偽章數卷作謗法誘人＝偽聖教問謗法作人也⑯〔大師〕一⑰元旨＝元始⑱佛になるとも＝成佛すとも⑲嫌ひ＝簡ひ⑳

は高峯はらすに蓮せうの生なざるやうに、二乗は佛の種をいり(焦)たりと云はれ、般若には五逆罪⑤の者は佛になるべし、二乗は叶フべからずと捨テらる。かゝるあさましき捨すて者の佛すてものになるを以て如來の本意とし、法華經の規模とす。依テ之ニ天台云⑥華嚴大品不能治スルコトヲ之ヲ唯有テ法華能令無學ヲシテテシ還生善根得成スルコトヲ佛道所以稱妙⑦又闡提有心猶可作佛ス二乘滅智心不可生ス法華能治復稱爲妙云云。此文の心は、委く申に及ばず。誠に知ぬ、華嚴方等・大品等の法藥も、二乗の重病をばいやさず。又三惡道の罪人をも菩薩ぞと爾前の經にはゆるせども、二乗をばゆるさず。依テ之ニ妙樂大師は餘趣會實諸經或有二乘全無故合菩薩對於二乘從難而說と釋し給へり。しかのみならず、二乗の作佛は一切衆生の成佛を顯すと天台は判じ給へり。脩羅が大海を渡らんをば、是難しとやせん。嬰兒の力士を投ん、何ぞたやすしとせん。然則佛性の種ある者は佛になるべしと爾前に説ども、未だ焦種の者作佛すべしとは不説。かゝる重病をたやすくいやすは、獨り法華の良藥也。只須く汝佛にならんと思はば、慢のはたほこ(幢)をたをし、忿いりの杖をすて、偏に一乘に歸すべし。名聞名利は今生のかざり、我慢偏執は後生のほだし(繼)也。嗚呼、恥ツべしく、恐ルべしく。問云、一を以て萬を察す

①生ざる＝生いぬ ②〔罪〕一 ③(されども)十二乗 ④〔經〕一 ⑤〔云〕一 ⑥〔又〕一  
 ⑦誠に知ぬ＝知ぬ殊に ⑧合＝令 ⑨是＝已 ⑩〔也〕一